

## 荒瀬ダム撤去工事記録誌発刊にあたって



熊本県知事 蒲島 郁夫

平成 30 年 3 月、50 年以上にわたって戦後の熊本県経済の復興、発展に大きく貢献してきた発電専用の荒瀬ダムは、6 ヶ年に及ぶ撤去工事を終えました。

戦後の熊本県は電力事情がひっ迫し、県内工場が操業短縮を余儀なくされる状況にありました。このような中、荒瀬ダムは電力の安定供給による本県経済の復興のために、12 名の尊い犠牲と延 80 万人もの人々の懸命の努力によって、八代市坂本町（当時の八代郡上松求麻村）に建設されました。昭和 29 年に県営では最初となる藤本発電所が運転を開始し、当時の発電量は、県内電力需要量の約 16% を占めるなど大きな役割を果たしてきました。

その間、この地で発電事業を営むことができたのは、ひとえに地元八代市、特に坂本町の皆様方の御理解と御協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

一方で、長期にわたるダム事業に伴って生じた様々な環境変化に対して、地元の皆様方から、ダム撤去を望む声があがりました。県では、地元の御要望を受け止め、撤去を決断し、平成 24 年度から撤去に着手しました。撤去資金の確保、安全と環境に配慮した撤去技術の確立、ダム撤去に伴う地域対策など様々な課題に対して、県選出国會議員や県議会から御支援いただき、国土交通省や環境省の技術的・財政的支援を確保することができました。

また、荒瀬ダム撤去フォローアップ専門委員会の方々からは、撤去工法等の専門的な助言を、地域対策協議会の方々からは、撤去に伴う地域課題について貴重な御意見をそれぞれいただきました。そして、工事関係者の方々には、事故を起こすことなく、計画された期間内に着実に撤去に取り組んでいただきました。このように、多くの方々の御労苦と御尽力によって、荒瀬ダム撤去工事を完了できましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

最後に、全国初のコンクリートダムの撤去は、後世に伝えるべき貴重な財産です。本県では、荒瀬ダム撤去工事で得られた様々な技術的・学術的な知見を、ここに工事記録誌として残し、後世に伝えてまいります。

平成 31 年 3 月